

人は考える、そして感じる葦でもある

感情と思考の 科学事典

【監修者】

海保 博之	東京成徳大学 筑波大学名誉教授
松原 望	聖学院大学 東京大学名誉教授

【編集者】

竹村 和久	早稲田大学
北村 英哉	東洋大学
住吉 千力	福島大学

A5判 484頁

定価9,975円(本体9,500円)

ISBN 978-4-254-10220-8 C3540

 朝倉書店

◎相対立するものとして扱われてきた「感情」と「思考」の二つの心の領域は、近年の研究知見の積み重ねにより、密接に関連（融接）してヒトを支えるものと考えられるようになった。本書ではこの視点に立って、心理学・哲学・認知科学・統計学・神経科学・情報科学・経済学・経営学・工学など多岐の分野にわたるキーワードをとりあげた。

◎「感情と思考」について、基礎から応用、実践場面まで多様な関心に応えられるように項目を企画・配置し、各項目を見開き2ページ（もしくは4ページ）中項目形式で構成した。

◎感情や思考に関心をもつ研究者や学生にとっては今後の研究の指針となり、実践家にとっては自他の心を見直し、さらに新たな心の世界への導きをもたらすものになると期待する。

内容目次

1部 感情

1-1 感情の理論

- 1-1-1. アージ理論 亀田達也
- 1-1-2. 基本的情動理論 唐沢かおり
- 1-1-3. 身体フィードバック仮説 北村英哉
- 1-1-4. 情動の二要因理論 北村英哉
- 1-1-5. 感情の情報処理メカニズム
北村英哉
- 1-1-6. 感情の認知的評価理論 唐沢かおり

1-2 感情の諸相

- 1-2-1. 感情の進化 唐沢かおり
- 1-2-2. 感情の社会化 平林秀美
- 1-2-3. ポジティブな感情とネガティブな感情
道家瑠見子
- 1-2-4. 自分の将来の感情の予測
道家瑠見子
- 1-2-5. 感情の測定 小森めぐみ・北村英哉

1-3 感情と動機づけ

- 1-3-1. やる気と意欲 鹿毛雅治
- 1-3-2. 目標理論 鹿毛雅治
- 1-3-3. 関心・目標と課題遂行 北村英哉
- 1-3-4. フロー体験 鹿毛雅治
- 1-3-5. 自己高揚と自己卑下 大久保暢俊
- 1-3-6. 当惑と誇り 有光興記

1-4 感情と対人関係

- 1-4-1. 対人認知と感情 北村英哉
- 1-4-2. 感情の認知 小森めぐみ
- 1-4-3. 共感性 平林秀美
- 1-4-4. 他者の感情への感受性 平林秀美
- 1-4-5. 愛着（アタッチメント） 平林秀美
- 1-4-6. 性格 村井潤一郎
- 1-4-7. ビッグファイブ 村井潤一郎
- 1-4-8. 恋愛 立脇洋介
- 1-4-9. 対人魅力 立脇洋介
- 1-4-10. 嫉妬と羨望 大久保暢俊
- 1-4-11. 欺瞞 村井潤一郎

1-5 文化と感情

- 1-5-1. 感情表出の文化差 内田由紀子
- 1-5-2. 自己と感情 内田由紀子
- 1-5-3. 恥と罪悪感 有光興記
- 1-5-4. 文化と自尊心 大久保暢俊
- 1-5-5. スポーツと感情 内田由紀子
- 1-5-6. ゲームと感情 森津太子
- 1-5-7. インターネット・ブログと感情
森津太子
- 1-5-8. 旅行と感情 片山美由紀
- 1-5-9. 観客と感情 片山美由紀

2部 思考と意思決定

2-1 言語と概念

- 2-1-1. 言語と思考 荷方邦夫
- 2-1-2. 言語情報処理過程 森 敏昭
- 2-1-3. プロトタイプ理論 岩男卓実
- 2-1-4. 概念の種類 岩男卓実
- 2-1-5. カテゴリーと制約 岩男卓実

2-2 推論

- 2-2-1. 演繹推論 住吉チカ
- 2-2-2. 帰納推論 住吉チカ
- 2-2-3. 仮説演繹法 戸田山和久
- 2-2-4. アブダクション 鷲田小彌太
- 2-2-5. 推論のバイアス 住吉チカ
- 2-2-6. 4枚カード問題 住吉チカ
- 2-2-7. 3囚人問題 住吉チカ
- 2-2-8. 領域固有性 岩男卓実
- 2-2-9. 思考の構えと固着 荷方邦夫

2-3 イメージ

- 2-3-1. イメージ的思考と命題的思考
高野陽太郎
- 2-3-2. イメージの心的操作 高野陽太郎
- 2-3-3. 認知地図 村越 真
- 2-3-4. 右脳思考 田谷文彦

2-4 問題解決

- 2-4-1. 表象化 村山 功
- 2-4-2. 問題空間 村山 功

- 2-4-3. アルゴリズム 村山 功
- 2-4-4. 類推のプロセス 荷方邦夫
- 2-4-5. プランニングと状況的認知 原田悦子

2-5 思考の諸相

- 2-5-1. 共同問題解決 比留間太白
- 2-5-2. 初心者と熟達者の問題解決
比留間太白
- 2-5-3. 文化と思考 唐澤真弓
- 2-5-4. 思考スタイル 松村暢隆
- 2-5-5. 結晶性知能と流動性知能
大川一郎・LIN Shuzhen

2-6 思考と記憶

- 2-6-1. 三貯蔵庫モデル 島田英昭
- 2-6-2. 潜在記憶と顕在記憶 井関龍太
- 2-6-3. 日常記憶 小林敬一
- 2-6-4. 意味記憶 井関龍太
- 2-6-5. ワーキングメモリ 苅阪満里子
- 2-6-6. 自動的処理 原田悦子
- 2-6-7. トップダウン処理とボトムアップ処理
島田英昭
- 2-6-8. 認知的節約原理 川崎恵里子
- 2-6-9. スキーマ 川崎恵里子
- 2-6-10. 自動化と学習、熟達化 原田悦子

2-7 意思決定理論

- 2-7-1. 合理性 清水和巳
- 2-7-2. 満足化原理 清水和巳
- 2-7-3. ゲームの理論 中村美枝子
- 2-7-4. 期待効用理論 松下 裕
- 2-7-5. 非線型効用理論 松下 裕
- 2-7-6. 効用と主観 松原 望
- 2-7-7. 囚人のジレンマ 中村美枝子
- 2-7-8. 統計的意思決定理論 星野崇宏

2-8 信念と意思決定

- 2-8-1. ベイズの定理 星野崇宏
- 2-8-2. ベイジアンネットワーク 星野崇宏
- 2-8-3. 主観確率 山岸侯彦
- 2-8-4. 信号検出理論 森 周司

3部 感情と思考の融接

3-1 温かい認知

- 3-1-1. 温かい認知 海保博之
- 3-1-2. 単純接触効果と広告 松田 憲
- 3-1-3. 状態依存記憶と気分一致効果 北村英哉
- 3-1-4. 感情と情報処理方略 北村英哉
- 3-1-5. PTSDとフラッシュバルブ記憶 小林敬一
- 3-1-6. 論理療法 越川房子
- 3-1-7. ポジティブ心理学 島井哲志

3-2 情動知

- 3-2-1. 情動知 海保博之
- 3-2-2. 知識の形態学 福島真人
- 3-2-3. 暗黙知 福島真人
- 3-2-4. マキャベリの知性(知能) 藤田和生
- 3-2-5. EQ(情動知能) 宇津木成介
- 3-2-6. パニック 釘原直樹
- 3-2-7. 目撃証言 箱田裕司

3-3 特異な感情思考

- 3-3-1. 完全主義 小堀 修
- 3-3-2. 自動思考 飯田順子
- 3-3-3. 反芻思考 飯田順子
- 3-3-4. 妄想 杉浦義典
- 3-3-5. 強迫思考 杉浦義典

3-4 説得

- 3-4-1. 説得コミュニケーション 今井芳昭
- 3-4-2. 態度変容 深田博己
- 3-4-3. 精緻化見込みモデル 藤原武弘
- 3-4-4. 認知的不協和理論 藤原武弘
- 3-4-5. 説得技法 今井芳昭
- 3-4-6. プロモーション戦略 守口 剛

3-5 感性

- 3-5-1. 感性 桑子敏雄
- 3-5-2. 好感度 神宮英夫
- 3-5-3. 感性計測 山下利之
- 3-5-4. 感性の品質とマネジメント 戒野敏浩
- 3-5-5. 色彩と感性 小松 紘
- 3-5-6. 音楽と感性・感情 谷口高士
- 3-5-7. 服装と感性 大坊郁夫
- 3-5-8. 化粧と感性 大坊郁夫
- 3-5-9. 住居と感性・感情 三浦佳世
- 3-5-10. 景観と感性 太田裕彦

3-6 身体

- 3-6-1. 身体知 福島真人
- 3-6-2. アフォーダンスと生態学的測定 古山宣洋
- 3-6-3. 「わざ」の習得 生田久美子
- 3-6-4. 装飾と身体 大坊郁夫

4部 感情のマネージメント

4-1 感情の統制

- 4-1-1. 感情統制 杉浦義典
- 4-1-2. 認知的統制 杉浦義典
- 4-1-3. 感情条件づけ 杉浦義典

4-2 感情の表出と抑制

- 4-2-1. 悲嘆 松井 豊
- 4-2-2. 怒り 大淵憲一
- 4-2-3. 攻撃性 大淵憲一
- 4-2-4. 喜び 上野行良
- 4-2-5. ユーモア 上野行良
- 4-2-6. 感情の表示規則 中村 真
- 4-2-7. 感情抑制 岩満優美
- 4-2-8. 感動と心理的変容 戸梶亜紀彦

4-3 感情管理と社会

- 4-3-1. 感情管理と感情労働 森 真一
- 4-3-2. マインド・コントロール 西田公昭
- 4-3-3. パーンアウト 久保真人

4-4 ストレス管理 小杉正太郎 編

- 4-4-1. 医学的ストレス研究と心理学的のストレス研究 島津明人
- 4-4-2. ストレスマネジメント 島津明人
- 4-4-3. ストレスの測定法 鈴木綾子
- 4-4-4. ストレスとソーシャルサポート 田中健吾
- 4-4-5. 現代社会と職業性ストレス研究 大塚泰正

4-5 感情の工学

- 4-5-1. 感情工学 福田収一
- 4-5-2. 行動ロボットとAI 柴田正良
- 4-5-3. ヒューマノイド 松原 仁
- 4-5-4. 感情ロボット 柴田正良
- 4-5-5. 人工感情 福田収一
- 4-5-6. 感情センサー 森島繁生
- 4-5-7. 感情自律エージェント 福田収一

5部 思考のマネージメント

5-1 思考訓練

- 5-1-1. メタ認知 三宮真智子
- 5-1-2. 批判的思考 楠見 孝
- 5-1-3. 議論とロジカルシンキング 福澤一吉
- 5-1-4. 認知カウンセリング 市川伸一
- 5-1-5. AHP 松原 望
- 5-1-6. 目的-手段分析 原田悦子
- 5-1-7. 弁証法的思考 鷲田小彌太

5-2 発想訓練

- 5-2-1. 発想の過程 小橋康章
- 5-2-2. KJ法 小橋康章
- 5-2-3. レパートリー・グリッド法 小橋康章
- 5-2-4. 連想思考 松村暢隆
- 5-2-5. 拡散的思考と収束的思考 松村暢隆

5-3 創造性

- 5-3-1. 創造性 小橋康章
- 5-3-2. 創造性の評価法 松村暢隆
- 5-3-3. 創造的教養の育成 縣 拓充・岡田 猛
- 5-3-4. 科学の創造 岡田 猛・山内保典
- 5-3-5. 科学コラボレーション 山内保典・岡田 猛
- 5-3-6. 美術の創造 横地早和子・岡田 猛

5-4 意思決定の心理方略

- 5-4-1. 意思決定方略 竹村和久
- 5-4-2. 判断バイアス 山岸侯彦
- 5-4-3. 帰属理論 外山みどり
- 5-4-4. 帰属のバイアス 外山みどり
- 5-4-5. フレーミング 藤井 聡
- 5-4-6. 認知の共有化 亀田達也
- 5-4-7. サunkコスト効果 亀田達也
- 5-4-8. プロスペクト理論 竹村和久
- 5-4-9. ステレオタイプ 上瀬由美子

5-5 現実場面の意思決定

- 5-5-1. 交渉 福野光輝
- 5-5-2. 社会的葛藤 大淵憲一
- 5-5-3. 逡巡 椎名乾平
- 5-5-4. リスク下の意思決定 広田すみれ
- 5-5-5. 不確実性下の意思決定 広田すみれ
- 5-5-6. 曖昧性 増田真也
- 5-5-7. 会議と意思決定 今野裕之
- 5-5-8. 意思決定支援 小橋康章

5-6 リスク認知とリスク・コミュニケーション

- 5-6-1. リスク心理学 吉川肇子
- 5-6-2. リスク認知 吉川肇子
- 5-6-3. リスク管理 吉川肇子
- 5-6-4. リスク・コミュニケーション 吉川肇子

5-7 経済心理学

- 5-7-1. 行動経済学 坂上貴之
- 5-7-2. 消費者心理学 杉本徹雄
- 5-7-3. 消費者の衝動購買 青木幸弘
- 5-7-4. 神経経済学 田谷文彦
- 5-7-5. 実験経済学 清水和巳
- 5-7-6. 行動ファイナンス 川西 諭
- 5-7-7. ニューロマーケティング 竹村和久
- 5-7-8. モチベーション・リサーチと描画の分析 竹村和久

3-1-1

温かい認知

■ 情と知

近代科学論の主流である「分析による統合」は、幾度となく手を変え品を変えての「統合による分析」の挑戦を受けながらも、依然としてその主流の座を譲る気配はない。科学的な思考の基本から発しているからであろうか。

それはさておくとしても、「情と知」のカテゴリー分けも、心のタキソノミーとしてアリストテレスの時代から、近代科学として体裁を整えた現代心理学まで頑固なまでに使われ続けてきた。

しかし、日常の心の働きは、そうしたタキソノミーをあざ笑うかのごとく、情と知は渾然一体としている。そうした心の現実、現象に適切な名称さえ与えないまま長らくほっておかれた。

「温かい認知」という用語は、1986年、ソレンチノ（Sorrentino, R.M.）らがハンドブックを編むときに意図的に使ったのが最初と思われる。彼らは、まず、「熱い認知」と「冷たい認知」とを区別した。

「熱い認知」は、1940年代後半に精神的に行ったニュールック心理学で取り上げられた現象、つまり、欲求や社会的要因によって知覚が支配されるような現象をさす。だが、ニュールック心理学がこの範疇に

究の主流を長い間、形成していた。

このように認知現象を2つの両極端に分けて、それをブレンドしたものとして、温かい認知を考えたのが、ソレンチノらであった。ここで、「ブレンドした」に彼らが込めたのは、「分離不能」「共生的」の意であった。

■ 今なぜ「温かい認知」研究なのか

分類されないものは存在しない。存在しないものは、研究対象になりえない。

「温かい認知」の研究が一つの自律的な研究領域を形成しえなかったのは、感情研究者からも認知研究者からも辺境のテーマとみなされてしまっていたようなところがある。

しかしながら、後述するように、実は、このカテゴリーに分類できる研究は、それぞれの心理学の研究領域で古くから蓄積されてきている。

これらに「温かい認知」という分類名称を与えることで、今後、研究が加速されることが期待される。

■ 温かい認知現象の特徴

温かい認知現象に共通する特徴をあげれば、次の4つになろう。

1) 日常性 温かい認知現象は、ごく日常的に発生している。むしろ、これは感情領域の現象、これは認知領域の現象と分けて考えるのは、研究上の方便にすぎないといってもよい。具体的な現象例については後述する。

2) 融接性 たとえば、冷たい認知の世界の典型であるコミュニケーション操作による仕事でも、そこにさまざまな形

読者対象

- 心理学、認知科学、神経科学、情報科学の研究者・学生
- 大学・企業・研究所および公共図書館

- マーケティング、商品開発従事者

[2010年4月刊]

きりとり線

【お申し込み書】この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

感情と思考の科学事典

A5判 484頁 定価9,975円(本体9,500円)
ISBN 978-4-254-10220-8 C3540

冊

●お名前 ☐ 公費 / ☐ 私費

●ご住所(〒) TEL

取扱書店

 朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29 / 振替00160-9-8673
電話 03-3260-7631 / FAX 03-3260-0180
http://www.asakura.co.jp eigyo@asakura.co.jp